

2018/12/10

柏の景気情報（平成30年11月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成30年11月分）

○ 調査期間 : 平成30年11月26日 ~ 平成30年12月9日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	70	44.9%
建設	44	18	40.9%
製造	33	16	48.5%
卸・小売	44	21	47.7%
サービス	35	15	42.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成30年11月の調査結果のポイント】

《業況DIは変わらず。先行きは懸念材料多いが横ばいで推移》

○11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.8(前月水準▲12.8)となり、変わらなかった。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△12.5(同△6.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲5.5(同▲10.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲13.3(同▲6.2)、卸小売業▲38.0(同▲36.8)である。

【建設業】からは、「消費税UP前の駆け込み需要を感じるが、年内の仕事に追われている。年明け後の話も前年よりあるようだが、どうなるのか見通し辛い」(一般土木建築工事業)、「最近3ヵ月先の工事受注見通しも不透明感あり。好況の業種と不況の業種が分断されている」(電気工事業)、「消費税増税を嫌気してか、一般顧客の注文が殺到。来年は当社もキャッシュレス化を検討しなくては」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「医療向け建材が停滞。見通しも下降傾向」(特殊産業用機械)、「決算では、前期の売上高より上昇したが、利益率の低下により今後の資金繰りに不安。原因を模索する」(印刷業)、「印刷の仕事自体が各会社で出来ることと印刷会社でしか出来ない仕事とに完全に分けられる時代。自社の存在理由を明確にしていかなければ生き残れない」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「陽気が暖かいせいか休日に出かける人が多く、郊外店舗の為来客数減少。一時出た季節商品の売上がストップ状態。消費税増税時の軽減措置が分かりにくい。薄利の為、カード手数料もあり、セール期間中は現金支払いの協力をお願いしている」(飲食料品小売業)、「1人当たりの顧客単価は昨年並。買上げ点数は微増の状況。衣料品は暖冬の影響で非常に厳しい状況に」(各種商品小売業)、「新学期商品の教科書、副読本の販売があり1~4月までがピーク。特に3、4月の売上で全体の8割が終了」(書籍・文房具小売業)、「11月から日本ワインの表示が変わり、市況への影響を予測したが、あまり売上に変化なし。定番品の売上は前年通りだが、スポット的な売上が昨年より落ち込む。市場が冷えて高単価商品の購買力が落ちたのか原因はわからない。12月の需要期に期待」(食料・飲料卸売業)、「テナントの入れ替わりが早く、定着しない」(各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「売上減少について、メニュー内容や接客等、店内における問題点を考える」(酒場・ビヤホール)、「ランチは良いが、夜の顧客が少ない。デリバリーは昼が良い。仕入は野菜の価格が安定してきた」(食堂・レストラン)、「ドライバー不足からくる引越業者の需給ギャップ解消対策で、社員の早めの転勤、移動を打つ企業が出ている。通常より繁忙期が早まりそう」(不動産賃貸・管理業)、「残り1ヶ月。戦略的ビジネスを描き向かう。先が読めない」(ソフトウェア業)、「ジワジワと効いてくる我が国のトップ企業の売上ダウン、中小企業にも響くか。市内の経営者に聞く景気は、多忙なれど利益上がらず。オリンピック景気はないだろうとの声」(投資顧問)などのコメントが寄せられた。

◎売上安定

各業種より、「11月は暖かかった為、10月に売れる品が1ヵ月ずれ込んで売れている。冬物の出が悪く、特にコートが悪い。ただ人手は多く、売上は大きく落とさなかった」(婦人・子供服小売業)、「比較的天候も安定していて、客足も良かった」(菓子・パン小売業)、「11月27日にステーションモール館2Fにフードストリートがオープン。入店客数は伸長し売上は堅調に推移」(各種商品小売業)、「高齢者の資産処分や、相続物件の売却依頼等の引き合いが増加。家賃並で購入できる値頃感のある住宅、マンションは安定して需要あり。高額物件の動きは鈍い」(不動産管理業)、「西口東口共に飲食新店ラッシュで好調。街の賑わいは飲食と大型店との共存である」(不動産賃貸業)との声が寄せられた。

◎経費増加

各業種より、「仕入価格上昇分、転嫁できず」(職別工事業)、「毎年多くの仕入先で価格改定がある時期。今年も多くのアイテムが一斉値上げ。連動して販売価格を値上げできるものもあるが、市場での競合が激しいアイテムには難しい。客先との値上げ交渉もアイテム毎にしなければならず難攻しそう」(自動車付属品製造業)、「仕入価格の値上げ要望が続く」(機械・同部品製造業)、「中国が米国から古紙を仕入できなくなり、日本の紙が不足し値上がりがしている」(紙製容器製造業)、「新年度春物商品の仕入れ在庫で当面の資金繰り厳しい。また、退職者を見込み人員確保(資格者、技術者)をしているが、確保の為に賞与も支給予定。この人件費増が収益の負担」(飲食料品小売業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	▲21.1	±0.0	▲30.7	▲39.1	▲13.3
7月	▲30.9	▲21.0	▲25.0	▲54.5	▲14.2
8月	▲11.4	▲5.8	△7.1	▲37.5	△6.6
9月	▲20.0	▲22.2	▲12.5	▲33.3	▲6.6
10月	▲12.8	▲10.5	△6.2	▲36.8	▲6.2
11月	▲12.8	▲5.5	△12.5	▲38.0	▲13.3
見通し	▲8.5	▲16.6	△12.5	▲14.2	▲13.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成30年11月の業況についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.8(前月水準▲12.8)となり、変わらなかった。

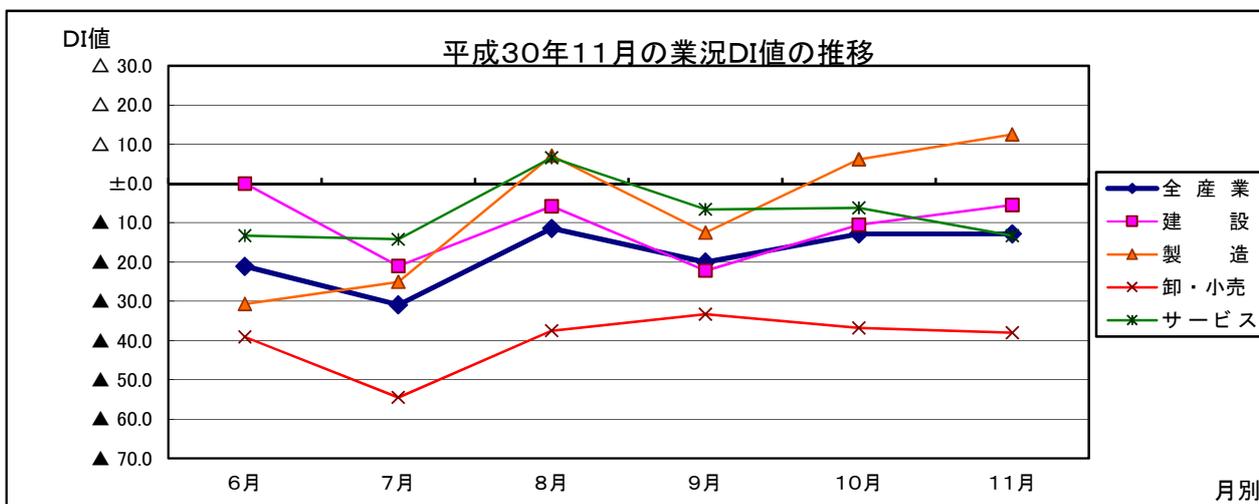
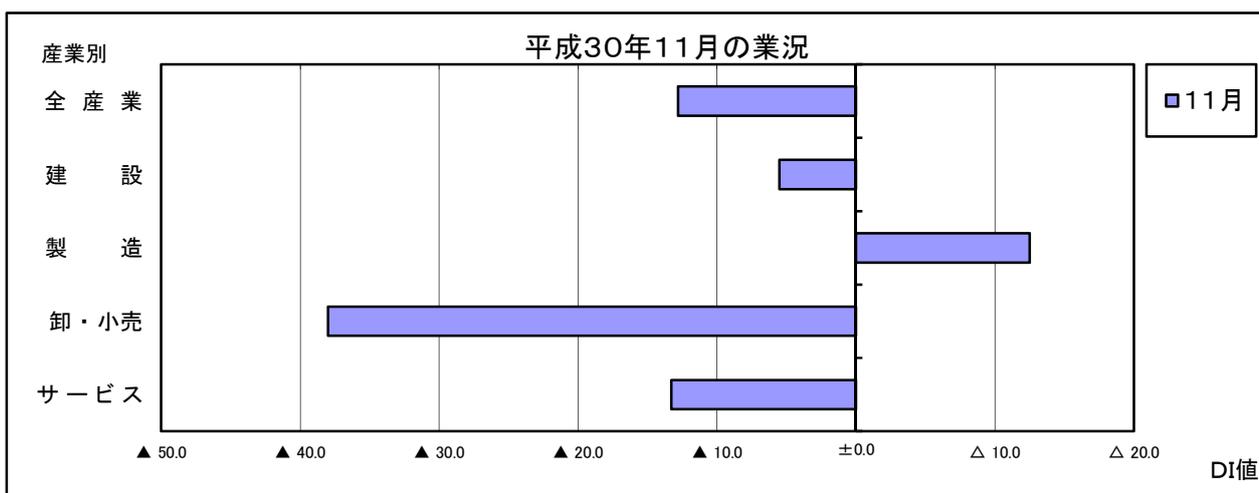
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△12.5(同△6.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲5.5(同▲10.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲13.3(同▲6.2)、卸小売業▲38.0(同▲36.8)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.5(前月水準▲14.2)となり、マイナス幅が5.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△12.5(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲14.2(同▲47.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲13.3(同±0.0)、建設業▲16.6(同▲5.2)である。

平成30年11月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲21.1	▲30.9	▲11.4	▲20.0	▲12.8	▲12.8	▲8.5(▲14.2)
建設	±0.0	▲21.0	▲5.8	▲22.2	▲10.5	▲5.5	▲16.6(▲5.2)
製造	▲30.7	▲25.0	△7.1	▲12.5	△6.2	△12.5	△12.5(±0.0)
卸・小売	▲39.1	▲54.5	▲37.5	▲33.3	▲36.8	▲38.0	▲14.2(▲47.3)
サービス	▲13.3	▲14.2	△6.6	▲6.6	▲6.2	▲13.3	▲13.3(±0.0)



【平成30年11月の売上についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.0(前月水準▲10.0)となり、変わらなかった。

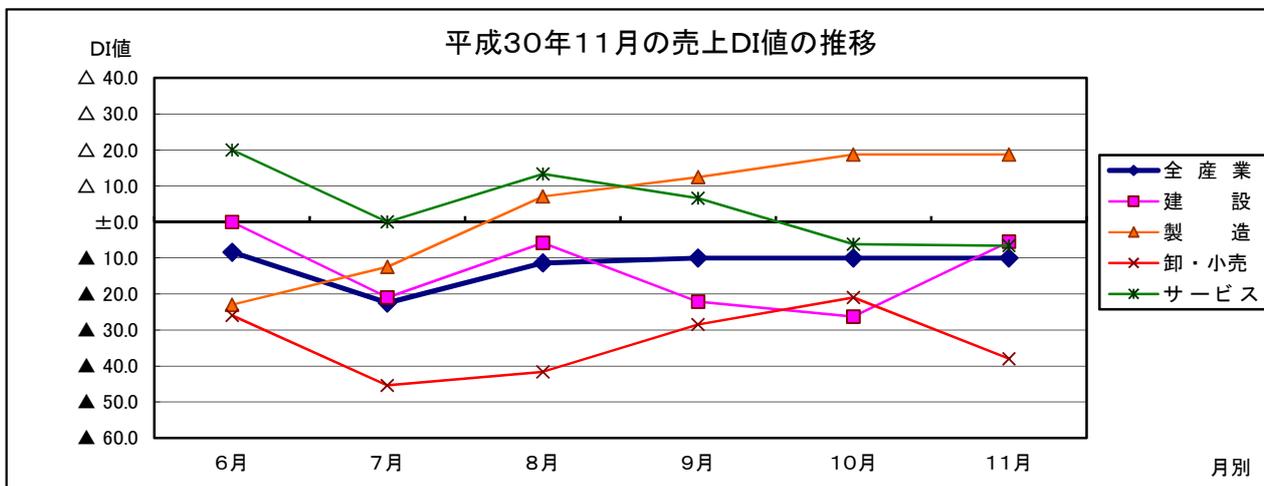
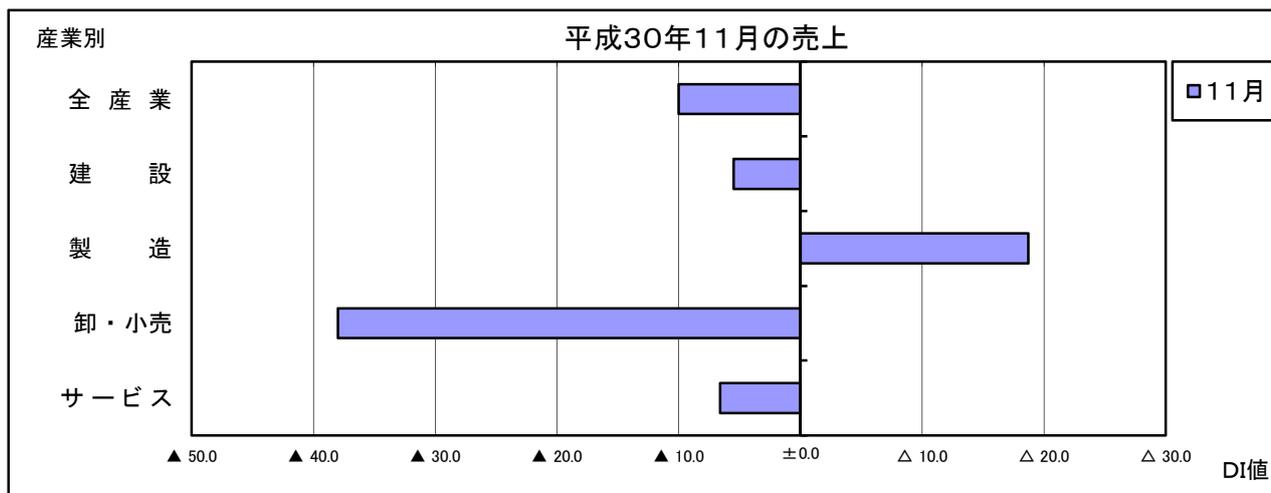
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲5.5(同▲26.3)である。変らない業種は、製造業△18.7(同△18.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲38.0(同▲21.0)、サービス業▲6.6(同▲6.2)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.1(前月水準▲11.4)となり、マイナス幅が4.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△6.6(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲19.0(同▲36.8)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同△6.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲11.1(同▲10.5)である。

平成30年11月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲8.4	▲22.5	▲11.4	▲10.0	▲10.0	▲10.0	▲7.1(▲11.4)
建設	±0.0	▲21.0	▲5.8	▲22.2	▲26.3	▲5.5	▲11.1(▲10.5)
製造	▲23.0	▲12.5	△7.1	△12.5	△18.7	△18.7	±0.0(△6.2)
卸・小売	▲26.0	▲45.4	▲41.6	▲28.5	▲21.0	▲38.0	▲19.0(▲36.8)
サービス	△20.0	±0.0	△13.3	△6.6	▲6.2	▲6.6	△6.6(±0.0)



【平成30年11月の採算についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.4(前月水準▲14.2)となり、マイナス幅は7.2ポイント拡大した。

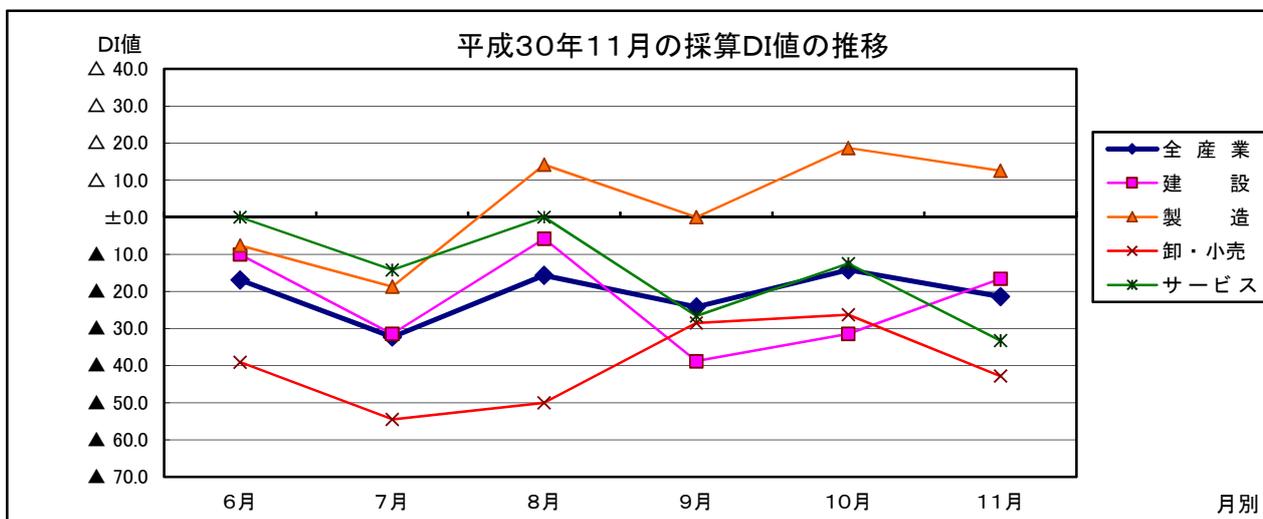
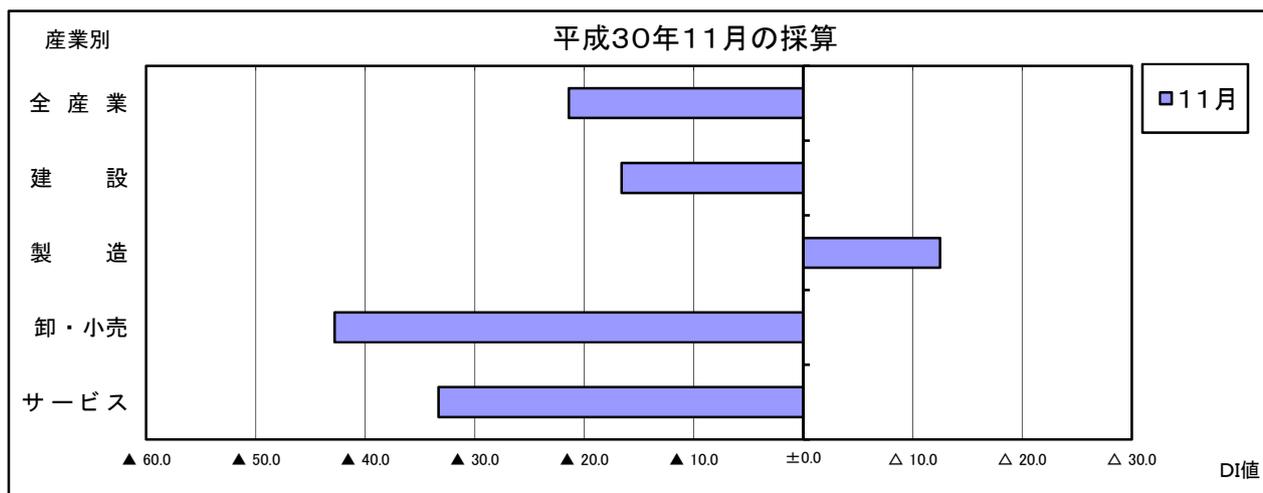
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲16.6(同▲31.5)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業△12.5(同△18.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲12.5)、卸小売業▲42.8(同▲26.3)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.4(前月水準▲17.1)であり、マイナス幅が4.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲23.8(同▲36.8)、サービス業▲6.6(同▲12.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲44.4(同▲15.7)、製造業▲6.2(同±0.0)である。

平成30年11月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲16.9	▲32.3	▲15.7	▲24.2	▲14.2	▲21.4	▲21.4(▲17.1)
建設	▲10.0	▲31.5	▲5.8	▲38.8	▲31.5	▲16.6	▲44.4(▲15.7)
製造	▲7.6	▲18.7	△14.2	±0.0	△18.7	△12.5	▲6.2(±0.0)
卸・小売	▲39.1	▲54.5	▲50.0	▲28.5	▲26.3	▲42.8	▲23.8(▲36.8)
サービス	±0.0	▲14.2	±0.0	▲26.6	▲12.5	▲33.3	▲6.6(▲12.5)



【平成30年11月の仕入単価についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲37.1(前月水準▲45.7)となり、マイナス幅が8.6ポイント縮小した。

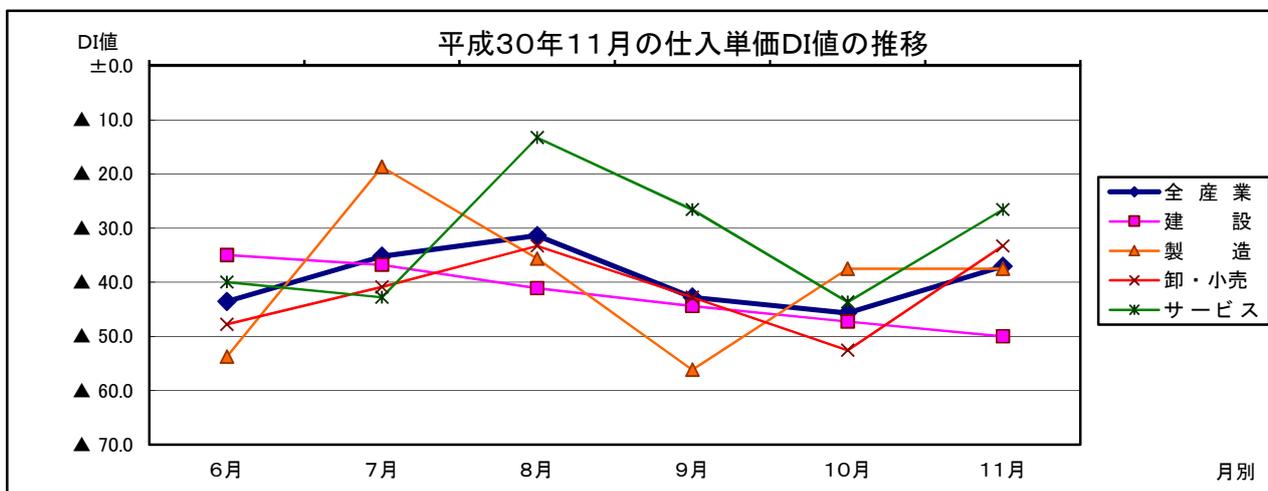
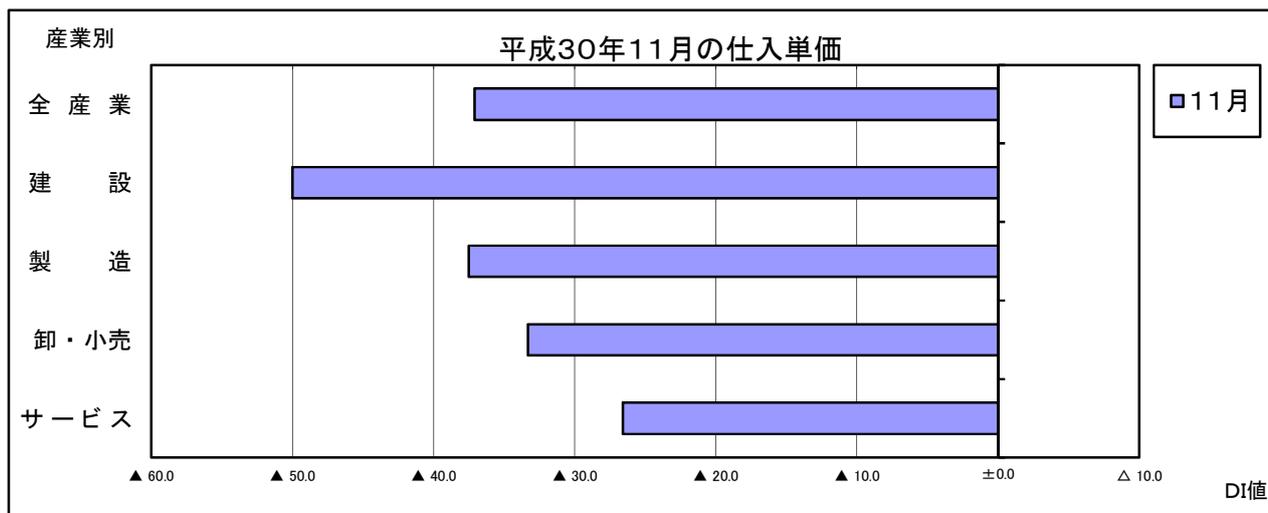
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲33.3(同▲52.6)、サービス業▲26.6(同▲43.7)である。変らない業種は、製造業▲37.5(同▲37.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲50.0(同▲47.3)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲28.5(前月水準▲27.1)となり、マイナス幅が1.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲27.7(同▲36.8)、卸小売業▲28.5(同▲31.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲25.0(同▲12.5)、サービス業▲33.3(同▲25.0)である。

平成30年11月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲43.6	▲35.2	▲31.4	▲42.8	▲45.7	▲37.1	▲28.5(▲27.1)
建設	▲35.0	▲36.8	▲41.1	▲44.4	▲47.3	▲50.0	▲27.7(▲36.8)
製造	▲53.8	▲18.7	▲35.7	▲56.2	▲37.5	▲37.5	▲25.0(▲12.5)
卸・小売	▲47.8	▲40.9	▲33.3	▲42.8	▲52.6	▲33.3	▲28.5(▲31.5)
サービス	▲40.0	▲42.8	▲13.3	▲26.6	▲43.7	▲26.6	▲33.3(▲25.0)



【平成30年11月の従業員についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△32.8(前月水準△27.1)となり、プラス幅が5.7ポイント拡大した。

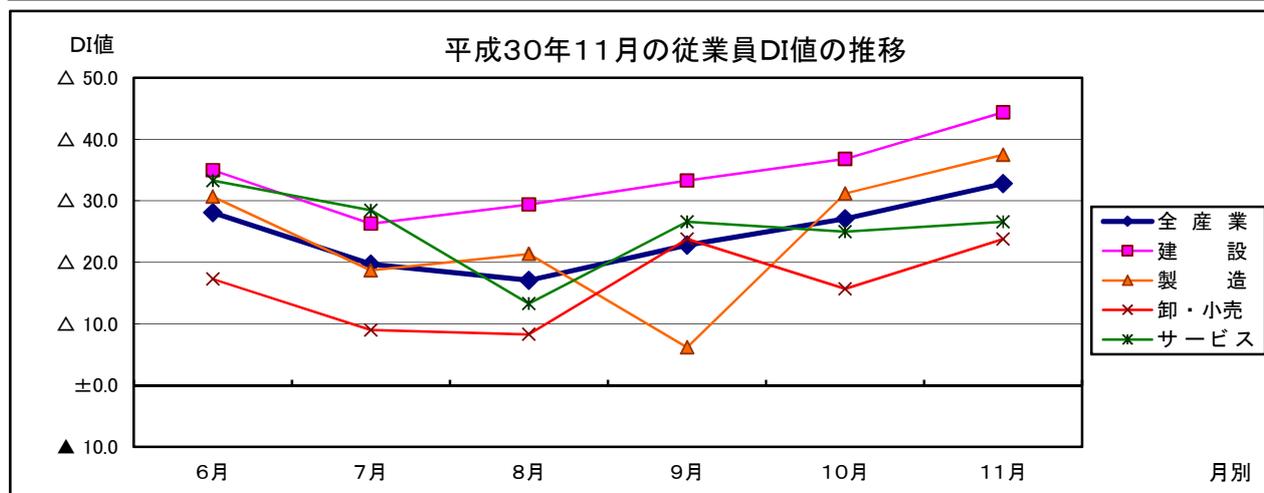
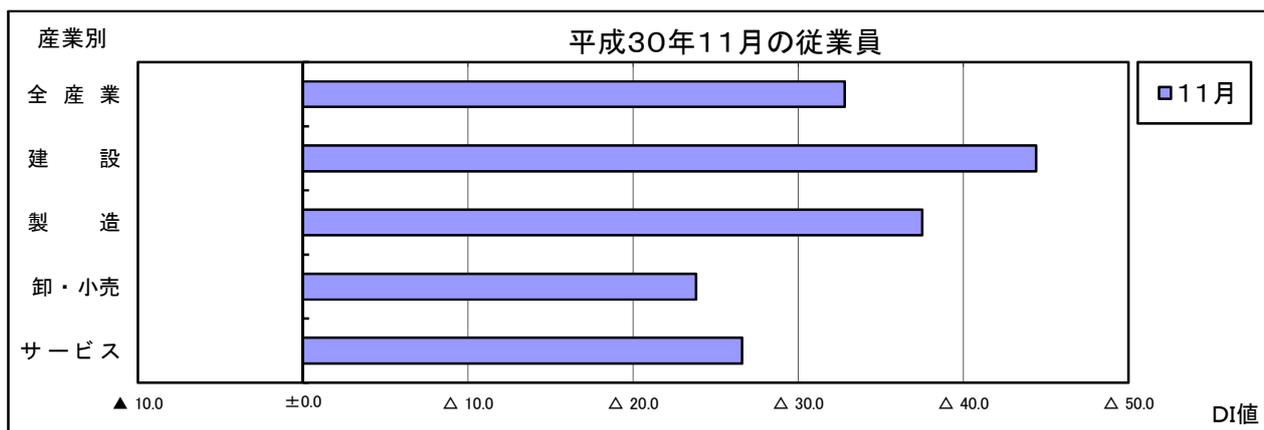
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業△23.8(同△15.7)、建設業△44.4(同△36.8)、製造業△37.5(同△31.2)、サービス業△26.6(同△25.0)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、△31.4(前月水準△28.5)となり、プラス幅が2.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△28.5(同△15.7)、製造業△37.5(同△25.0)、サービス業△26.6(同△25.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△33.3(同△47.3)である。

平成30年11月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	△28.1	△19.7	△17.1	△22.8	△27.1	△32.8	△31.4(△28.5)
建設	△35.0	△26.3	△29.4	△33.3	△36.8	△44.4	△33.3(△47.3)
製造	△30.7	△18.7	△21.4	△6.2	△31.2	△37.5	△37.5(△25.0)
卸・小売	△17.3	△9.0	△8.3	△23.8	△15.7	△23.8	△28.5(△15.7)
サービス	△33.3	△28.5	△13.3	△26.6	△25.0	△26.6	△26.6(△25.0)



【平成30年11月の資金繰りについての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.4(前月水準▲10.0)となり、マイナス幅が7.1ポイント縮小した。

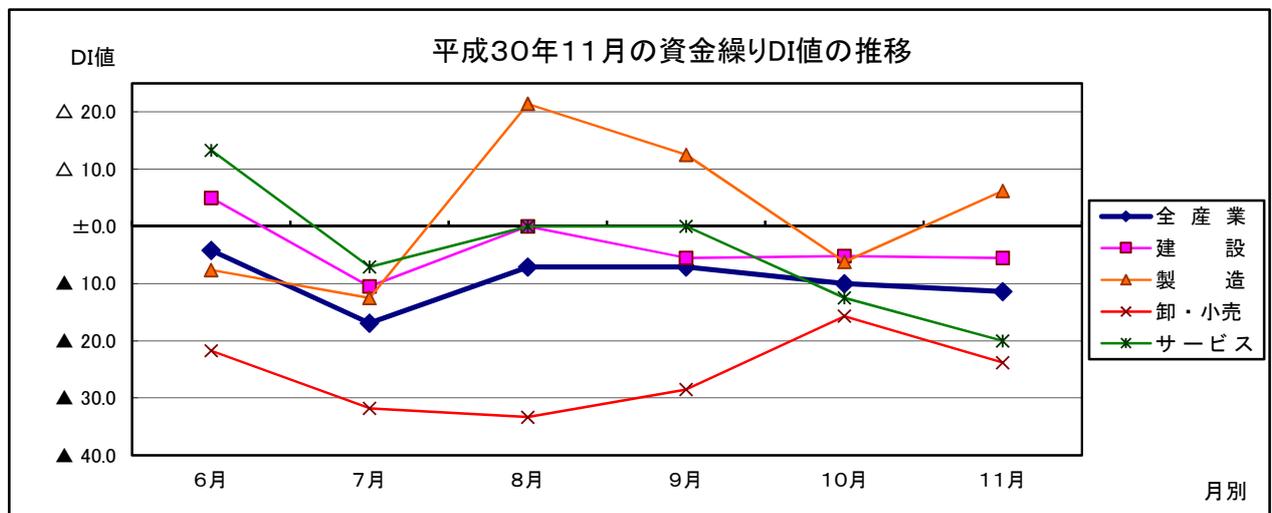
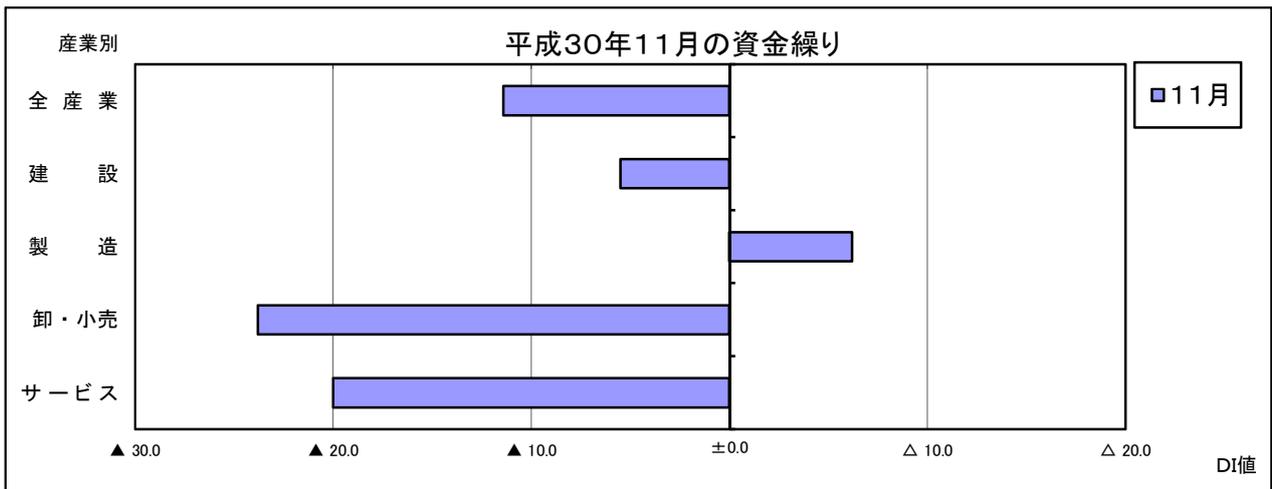
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△6.2(同▲6.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲23.8(同▲15.7)、サービス業▲20.0(同▲12.5)、建設業▲5.5(同▲5.2)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.4(前月水準▲8.5)となり、マイナス幅が2.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△6.2(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業±0.0(同▲31.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.6(同±0.0)、建設業▲5.5(同±0.0)である。

平成30年11月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成30年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲4.2	▲16.9	▲7.1	▲7.1	▲10.0	▲11.4	▲1.4(▲8.5)
建設	△5.0	▲10.5	±0.0	▲5.5	▲5.2	▲5.5	▲5.5(±0.0)
製造	▲7.6	▲12.5	△21.4	△12.5	▲6.2	△6.2	△6.2(±0.0)
卸・小売	▲21.7	▲31.8	▲33.3	▲28.5	▲15.7	▲23.8	±0.0(▲31.5)
サービス	△13.3	▲7.1	±0.0	±0.0	▲12.5	▲20.0	▲6.6(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 10.0	▲ 7.1	▲ 21.4	▲ 21.4	▲ 37.1	▲ 28.5	△ 32.8	△ 31.4
建設	▲ 5.5	▲ 11.1	▲ 16.6	▲ 44.4	▲ 50.0	▲ 27.7	△ 44.4	△ 33.3
製造	△ 18.7	±0.0	△ 12.5	▲ 6.2	▲ 37.5	▲ 25.0	△ 37.5	△ 37.5
卸・小売	▲ 38.0	▲ 19.0	▲ 42.8	▲ 23.8	▲ 33.3	▲ 28.5	△ 23.8	△ 28.5
サービス	▲ 6.6	△ 6.6	▲ 33.3	▲ 6.6	▲ 26.6	▲ 33.3	△ 26.6	△ 26.6

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 12.8	▲ 8.5	▲ 11.4	▲ 1.4
建設	▲ 5.5	▲ 16.6	▲ 5.5	▲ 5.5
製造	△ 12.5	△ 12.5	△ 6.2	△ 6.2
卸・小売	▲ 38.0	▲ 14.2	▲ 23.8	±0.0
サービス	▲ 13.3	▲ 13.3	▲ 20.0	▲ 6.6

【平成30年11月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設	消費税UP前の駆け込み需要を感じていますが、年末なので年内の仕事に追われています。年明け後の話も前年よりはるような感じですが、これからどうなるのかは見通しづらい感じです。	消費税増税 先行き不透明	一般土木建築工事業
	6ヵ月、1年先の工事受注見通しが、最近では3ヵ月先も不透明感あり。好況の業種と不況の業種が分断されている。	先行き不透明	電気工事業
	来年の今頃畳工事をするに消費税が10%になってしまうことを嫌気してか、一般顧客の注文が殺到。来年は当社もカード支払いを可能にして、キャッシュレス化を検討しなくては。	消費税増税 受注増加 キャッシュレス化	内装工事業
	11月2名採用。仕入価格上昇分、転嫁できず。	人員確保 経費増加	職別工事業
製造業	今月は毎年多くの仕入先で価格改定がある時期であり、今年も多くのアイテムが一斉に値上がりした。販売価格を仕入価格の値上がり連動して値上げできるものもあるが、市場での競合が激しいアイテムについては、一斉値上げが難しく、客先との値上げ交渉もアイテム毎にしなければならず、時間がかかり難攻しそうである。	経費増加	自動車付属品製造業
	医療向け建材が停滞。見通しも下降傾向。	売上停滞	特殊産業用機械
	仕入価格の値上げ要望が続いている。	経費増加	機械・同部品製造業
	中国が米国からの古紙の仕入が出来なくなり、日本の古紙が値上がりしている。日本の紙が不足になり、値上がりしている。	経費増加	紙製容器製造業
	2018年度の決算では、前期の売上高より上昇したけれど、利益率の低下により今後の資金繰りに不安がある。原因を模索する。	利益率低下 資金繰り不安	印刷業
	印刷の仕事自体が各会社で出来ることと印刷会社でしか出来ない仕事とに完全に分けられる時代になった。自社の存在理由を明確にしていかなければ生き残れない。	企業の存在意義	印刷業
卸小売	新年度(31年)春物商品の仕入れ在庫で当面の資金繰り厳しい。業績に影響するので退職者を見込み人員確保(資格者、技術者)をしているが、この部分の人件費増が収益の負担になっていて資金繰りが厳しい。業績は厳しいが資格者確保の為賞与も支給予定で資金繰りが厳しい。陽気が暖かいせいか連休(休日)に出かける人が多く、郊外店舗の為に客数が減少。一時出た季節商品の売上がストップ状態。消費税増税時の軽減措置が分かりにくい。会社関係(飲食)の配達もある。また、薄利の為セール期間中はカード手数料もあり、現金支払いにご協力をお願いしている。文具、菓子等100円～200円単位の買い物もある。	経費増加 暖冬の影響 売上停滞 消費税増税	飲食料品小売業
	暖かい11月であった為、本来10月に売れる品が1ヵ月ずれ込んで売れている。冬物の出が悪い。特にコートの出が悪い。ただ人手が多く感じその分売上は大きく落とすことはなかった。	暖冬の影響 売上安定	婦人・子供服小売業
	お客様1人当たりの単価はほぼ昨年並、1人当たりの買い上げ点数は微増の状況。衣料品は暖冬の影響で非常に厳しい状況となった。	暖冬の影響	各種商品小売業
	新学期商品の教科書、副読本の販売であり1月～4月までがピーク。特に3月、4月の売上で全体の8割が終了する。	新学期商品	書籍・文房具小売業
	11月から日本ワインの表示が変わり、市況に影響があると予測したが、あまり売上に変化がなかった。定番品の売上は前年通りであるが、スポット的な売上が昨年より落ち込んでいる。2年連続同じ企画を行わないのか、それとも市場が冷えて高単価商品の購買力が落ちたのか原因はわからない。12月の需要期に期待をしたい。	売上減少	食料・飲料卸売業
	11月は比較的気候も安定していて、客足も良かったです。	暖冬の影響 売上安定	菓子・パン小売業
	11月27日にステーションモール館2Fにフードストリートがオープンし、入店客数は伸長し売上は堅調に推移。	売上安定	各種商品小売業
	テナントの入れ替わりが早く、定着しない。	テナント定着率低迷	各種商品小売業
サービス業	売上減少について。店内における問題点を考えるようにします。メニュー内容、接客等	売上減少	酒場・ビヤホール
	ランチは良いが、夜のお客様が少ない。デリバリーは昼は良い。仕入も野菜の価格が安定してきた。	客足動向	食堂・レストラン
	高齢者の資産処分や、相続物件の売却依頼等の引き合いが増えています。家賃並みで購入できる価額に値頃感のある住宅、マンションは安定して需要があります。高額物件の動きは鈍いです。	売上安定	不動産管理業
	西口東口共に飲食新店ラッシュで好調です。街の賑わいは飲食と大型店との共存です。	売上好調	不動産賃貸業
	ドライバー不足からくる引越業者の需給ギャップ解消対策として、社員の早めの転勤、移動を打つ企業が出てきているので、通常より繁忙期が早まりそう。	人手不足	不動産賃貸・管理業
	残す1ヶ月。戦略的ビジネスを描き向かう。先が読めません。	先行き不透明	ソフトウェア業

【平成30年11月業種別業界内トピックス】

<p>12月1日の米中首脳会談3カ月の猶予期間で再交渉、保護主義のトランプ政策解決は無理。しかしジワジワと効いてくる我が国のトップ企業の売上ダウン、中小企業にも響くか。市内の経営者に聞く景気は多忙なれど利益上がらずオリンピック景気はないだろうの声。アベノミクスでの収益はひとまず終了か。しかしドン・キホーテ、ワークマン、代表にユニークな経営感覚は笑い止まらず、アジアも高賃金に変貌、逆に先進国が自国にAI新工場作る第三イノベーション経済に入ったと想定。借入金を減少させ身軽な経営方針に転換する足跡聞こえる。株も持ち高減少し政治の流れを熟慮する段階に。</p>	<p>景気停滞</p>	<p>投資顧問</p>
---	-------------	-------------

◎売上安定

各業種より、「11月は暖かかった為、10月に売れる品が1ヵ月ずれ込んで売れている。冬物の出が悪く、特にコートが悪い。ただ人手は多く、売上は大きく落とさなかった」(婦人・子供服小売業)、「比較的天候も安定していて、客足も良かった」(菓子・パン小売業)、「11月27日にステーションモール館2Fにフードストリートがオープン。入店客数は伸長し売上は堅調に推移」(各種商品小売業)、「高齢者の資産処分や、相続物件の売却依頼等の引き合いが増加。家賃並で購入できる値頃感のある住宅、マンションは安定して需要あり。高額物件の動きは鈍い」(不動産管理業)、「西口東口共に飲食新店ラッシュで好調。街の賑わいは飲食と大型店との共存である」(不動産賃貸業)との声が寄せられた。

◎経費増加

各業種より、「仕入価格上昇分、転嫁できず」(職別工事業)、「毎年多くの仕入先で価格改定がある時期。今年も多くのアイテムが一斉値上げ。連動して販売価格を値上げできるものもあるが、市場での競合が激しいアイテムには難しい。客先との値上げ交渉もアイテム毎にしなければならず難攻しそう」(自動車付属品製造業)、「仕入価格の値上げ要望が続く」(機械・同部品製造業)、「中国が米国から古紙を仕入できなくなり、日本の紙が不足し値上がりしている」(紙製容器製造業)、「新年度春物商品の仕入れ在庫で当面の資金繰り厳しい。また、退職者を見込み人員確保(資格者、技術者)をしているが、確保の為に賞与も支給予定。この人件費増が収益の負担」(飲食料品小売業)との声が寄せられた。

平成30年11月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.8に対し、「CCI-LOBO」が▲14.9で柏の方がマイナス幅が2.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.0に対し、「CCI-LOBO」が▲5.3で柏の方がマイナス幅が4.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.4に対し、「CCI-LOBO」が▲13.1で柏の方がマイナス幅が8.3ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲37.1に対し、「CCI-LOBO」が▲42.0で柏の方がマイナス幅が4.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△32.8に対し、「CCI-LOBO」が△26.1で柏の方がプラス幅が6.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.4に対し、「CCI-LOBO」が▲8.7で柏の方がマイナス幅が2.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。

平成30年11月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 12.8	 ▲ 5.5	 12.5	 ▲ 38.0	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 14.9	 ▲ 9.9	 ▲ 10.2	 ▲ 29.2	 ▲ 13.2

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.0	 ▲ 5.5	 18.7	 ▲ 38.0	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 5.3	 ▲ 5.9	 5.3	 ▲ 22.8	 ▲ 5.9

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 21.4	 ▲ 16.6	 12.5	 ▲ 42.8	 ▲ 33.3
CCI-LOBO	 ▲ 13.1	 ▲ 13.2	 ▲ 7.9	 ▲ 23.6	 ▲ 14.9

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 37.1	 ▲ 50.0	 ▲ 37.5	 ▲ 33.3	 ▲ 26.6
CCI-LOBO	 ▲ 42.0	 ▲ 47.4	 ▲ 46.4	 ▲ 34.9	 ▲ 40.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 32.8	 44.4	 37.5	 23.8	 26.6
CCI-LOBO	 26.1	 35.9	 21.7	 21.5	 29.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.4	 ▲ 5.5	 6.2	 ▲ 23.8	 ▲ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 8.7	 ▲ 3.0	 ▲ 7.7	 ▲ 17.4	 ▲ 7.8

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(11月速報)

調査期間：平成30年11月14日～20日

調査対象：全国の423商工会議所が3727企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、3カ月ぶりの改善。先行きは慎重な見方崩れず横ばい圏内

11月の全産業合計の業況DIは、▲14.9と、前月から+2.3ポイントの改善。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。産業用機械や自動車、電子部品関連、建設業が堅調に推移した。また、インバウンドを含む観光需要の好調な動きや、農産物について、夏以降の価格上昇に落ち着きが見られると指摘する声も聞かれた。他方、原材料費・燃料費の上昇や深刻な人手不足、根強い消費者の節約志向が足かせとなっており、中小企業の業況改善に向けた動きには鈍さが見られる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲13.7（今月比+1.2ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。年末年始の個人消費拡大やインバウンドを含めた観光需

要拡大、生産・設備投資の堅調な推移への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、原材料費・燃料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁遅れ、米国の保護主義的な関税措置に端を発する貿易摩擦、消費増税の影響を懸念する声も多く、中小企業の業況感ほぼ横ばいで推移する見通し。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、卸売業、サービス業で改善、その他の3業種では横ばい。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「工場などの民間工事に加え、大型の公共工事を受注できたため、売上は増加。だが、鉄鋼を始めとする建設資材価格の上昇から、収益の確保には苦戦している」（建築工事業、「西日本豪雨や台風などの災害復旧工事が増えているものの、深刻

な人手不足から、受注しきれない。人材確保を最優先目標に据えているが、具体的な解決策を見いだせない」（一般工事業）

【製造業】「企業の設備投資意欲の高さから受注が増え、売上は改善。だが、世界経済全体の不透明感が強まっており、現在の受注量を維持できるか不安である」（金属加工機械製造業、「米中貿易摩擦を背景に、中国が古紙の調達先を米国から日本に変えたことで、古紙価格が高騰している。今夏に値上げを実施したばかりであり、さらなる価格転嫁は難しい」（紙製品製造業）

【卸売業】「好天を背景に野菜の生産量が回復した。価格も前年と同水準以下にまで下落し、高値で減少していた需要も元に戻りつつある」（農産物卸売業、「消費者の節約志向から、冬物衣料の動きが鈍く、売上は悪化した。廃業等により販売先が減少していることもあり、今後も売上増は難しい」（衣料品等卸売業）

【小売業】「インバウンド需要が堅調で、売上は改善。QRコード決済など、キャッシュレス決済端末を導入したことも、売上増に寄与している」（化粧品等小売業、「他

店との価格競争が厳しく、採算悪化となったほか、パート・アルバイトの人手不足が深刻で、最低賃金を大幅に上回る時給を提示しているが、応募がない」（各種商品小売業）

【サービス業】「今月は暖かい日が多く、天候が安定していたため、観光客を中心に来店が増えた。高値が続いていた農産物価格の下落により、採算も改善した」（飲食業、「配送依頼は多いが、ドライバー不足から受注を絞らざるを得ない。燃料費の高騰が収益を圧迫しているため、さらなる運賃改定を検討している」（運送業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
6月	▲15.4	▲10.1	▲6.5	▲17.1	▲32.3	▲12.8
7月	▲16.7	▲11.5	▲11.5	▲18.8	▲29.0	▲13.6
8月	▲14.8	▲8.1	▲11.4	▲16.1	▲27.7	▲11.7
9月	▲16.0	▲7.6	▲9.6	▲17.8	▲31.4	▲13.9
10月	▲17.2	▲10.7	▲10.2	▲24.9	▲29.3	▲15.2
11月	▲14.9	▲9.9	▲10.2	▲9.3	▲29.2	▲13.2
見通し	▲13.7	▲9.9	▲11.3	▲7.3	▲25.9	▲11.1

柏の景気情報

(11月の調査結果のポイント)

調査期間：平成年 11月 26日～12月 9日

調査対象：柏市内 156 事業所及び組合に
ヒアリング、回答数 70 件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	▲21.1	± 0.0	▲30.7	▲39.1	▲13.3
7月	▲30.9	▲21.0	▲25.0	▲54.5	▲14.2
8月	▲11.4	▲ 5.8	△ 7.1	▲37.5	△ 6.6
9月	▲20.0	▲22.2	▲12.5	▲33.3	▲ 6.6
10月	▲12.8	▲10.5	△ 6.2	▲36.8	▲ 6.2
11月	▲12.8	▲ 5.5	△12.5	▲38.0	▲13.3
見通し	▲ 8.5	▲16.6	△12.5	▲14.2	▲13.3

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

「柏市の業況」

全産業況D Iは変わらず。先行きは懸念材料多いが横ばいで推移

11月の全産業合計のD I値(前年同月比・ベース、以下同じ)は、▲12.8(前月水準▲12.8)となり、変わらなかった。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△12.5(同△6.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲5.5(同▲10.5)である。

マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲13.3(同▲6.2)、卸小売業▲38.0(同▲3

6.8)である。

【建設業】からは、「消費税UP前の駆け込み需要を感じている。年明け後の話も前年よりあるようだが、どうなるのか見通し辛い」(一般土木建築工事業)、「最近3カ月前の工事受注見通しも不透明感あり。好況の業種と不況の業種が分断されている」(電気工事業)、「消費税増税を嫌気してか、一般顧客の注文が殺到。来年は当社もキャッシュレス化を検討しなくては」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「医療向け建材が停滞。見通しも下降傾向」(特殊産業用機械)、「決算では、前期の売上高より上昇したが、利益率の低下により今後の資金繰りに不安。原因を模索する」(印刷業)、「印刷の仕事自体が各会社で出来ることと印刷会社でしか出来ない仕事とに完全に分けられる時代。自社の存在理由を明確にしていかなければ生き残れない」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「陽気

が暖かいせいか休日に出かける人が多く、郊外店舗の為に客数減少。一時出た季節商品の売上がストップ状態。消費税増税時の軽減措置が分かりにくい。薄利の為、カード手数料

料もあり、セール期間中は現金支払いの協力をお願いしている」(飲食料品小売業)、「1人当たりの顧客単価は昨年並。買上げ点数は微増の状況。衣料品は暖冬の影響で非常に厳しい状況に」(各種商品小売業)、「新学期商品の教科書、副読本の販売があり1〜4月までがピーク。特に3、4月の売上で全体の8割が終了」(書籍・文房具小売業)、「11月から日本ワインの表示が変わり、市況への影響を予測したが、あまり売上に変化なし。定番品の売上は前年通りだが、スポーツ的な売上が昨年より落ち込む。市場が冷えて高単価商品の購買力が落ちたのの原因はわからない。12月の需要期に期待」(食料・飲料卸売業)、「テナントの入れ替わりが早く、定着しない」(各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「売上減少について、メニュー内容や接客等、店内における問題点を考える」(酒場・ビヤホール)、「ランチは良いが、夜の顧客が少ない。デリバリーは昼が良い。仕入は野菜の価格が安定してきた」(食堂・レストラン)、「ドライバー不足からくる引越業者の需給ギャップ解消対策で、社員の早めの転勤、移動を打つ企業が出てくる。通常より繁忙期が早ま

りそう」(不動産賃貸・管理業)、「残す1ヶ月。戦略的にビジネスを描き向かう。先が読めない」(ソフトウェア業)、「ジワジワと効いてくる我が国のトップ企業の売上ダウン、中小企業にも響くか。市内の経営者に聞く景気は、多忙なれど利益上がらず。オリピック景気はないだろうとの声」(投資顧問)などのコメントが寄せられた。

「11月の景気キーワード」
●売上安定
各業種より、「11月は暖かかった為、10月に売れる品が1カ月ずれ込んで売れている。冬物の出が悪く、特にコートが悪い。ただ人手は多く、売上は大きく落とさなかった」(婦人・子供服小売業)、「比較的天候も安定している、客足も良かった」(菓子・パン小売業)、「11月27日にステーションモール館2Fにフードストリートがオープン。入店客数は伸長し売上は堅調に推移」(各種商品小売業)、「高齢者の資産処分や、相続物件の売却依頼等の引き合いが増加。家賃並で購入できる値頃感のある住宅、マンションは安定して需要あり。高額物件の動きは鈍い」(不動産管理業)、「西口東口共に飲食新店ラッシュで好調。街の賑わいは飲食と大型店との共

存である」(不動産賃貸業)との声
が寄せられた。
●経費増加
各業種より、「仕入価格上昇が、転嫁できず」(職別工事業)、「毎年多くの仕入先で価格改定がある時期。今年も多くのアイテムが一律値上げ。連動して販売価格を値上げできるものもあるが、市場での競合が激しいアイテムには難しい。客先との値上げ交渉もアイテム毎にしなければならず難攻しそう」(自動車付属品製造業)、「仕入価格の値上げ要望が続く」(機械・同部品製造業)、「中国が

米国から古紙を仕入できなくなっている」(紙製容器製造業)、「新年度春物商品の仕入れ在庫で当面の資金繰り厳しい。また、退職者を見込み人員確保(資格者、技術者)をしているが、確保の為に賞与も支給予定。この人件費増が収益の負担」(飲食料品小売業)との声

全国の商工会議所早期景気観測調査(CO1-100)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲12.8に対し、「CCI・LBO」が▲14.9で柏の方がマ